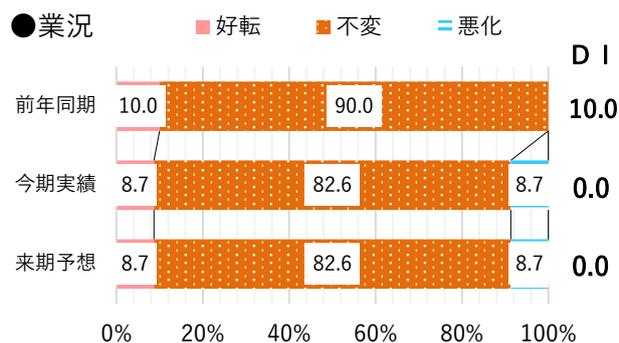


建設業

業況、売上、採算

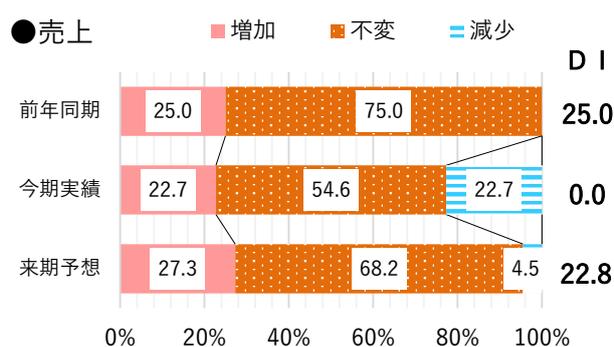
今期（2024.4～6）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2023.4～6）と比べ10.0ポイント低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況に変化はないと予想しています。



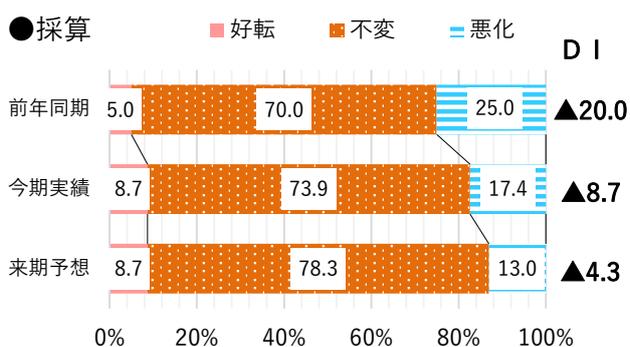
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ25.0ポイント低下しました。

来期は、売上の増加を予想しています。

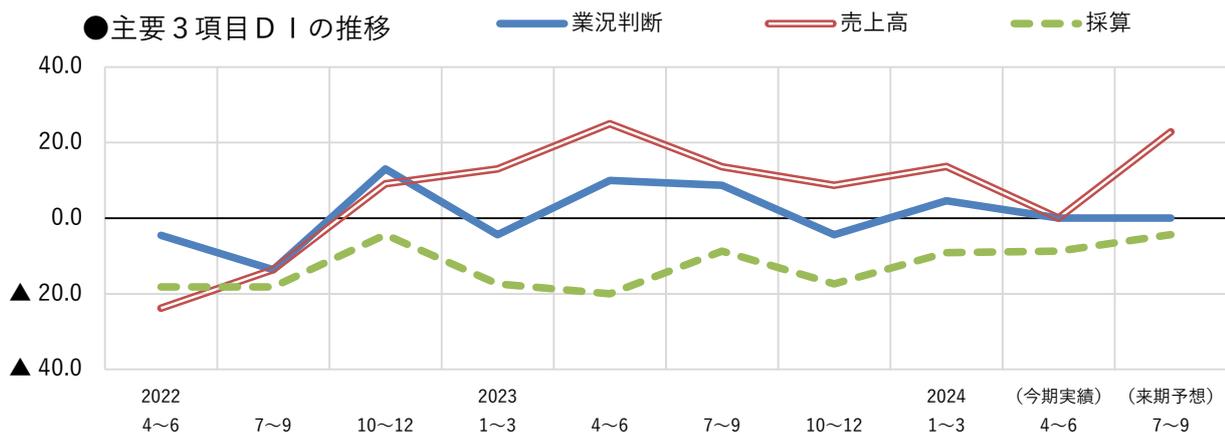


今期の採算DIは▲8.7で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



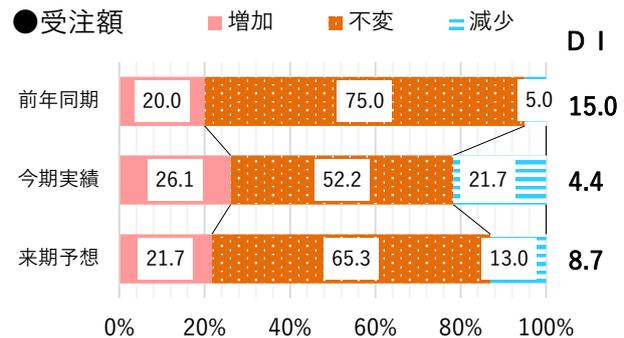
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

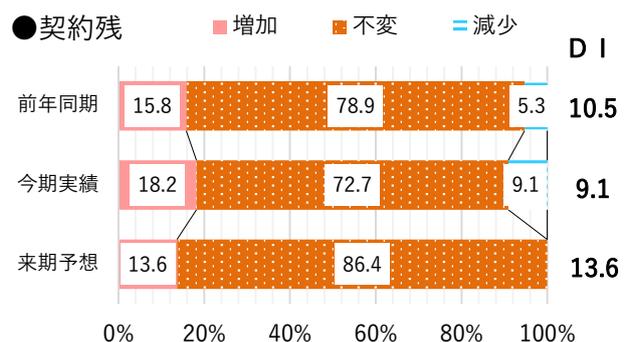
今期の受注額DIは4.4で、前年同期と比べ10.6ポイント低下しました。

来期は、受注額に大きな変化はないと予想しています。



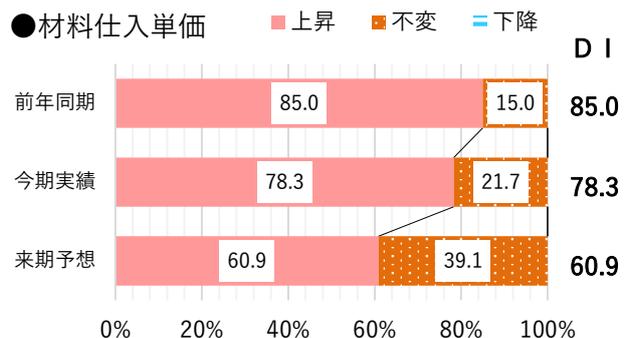
今期の契約残DIは9.1で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。

来期は、契約残に大きな変化はないと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは78.3で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

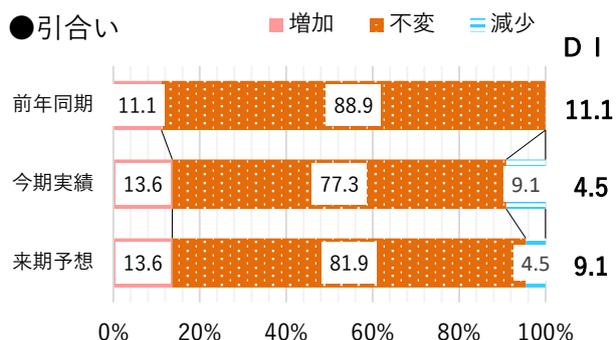
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは4.5で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

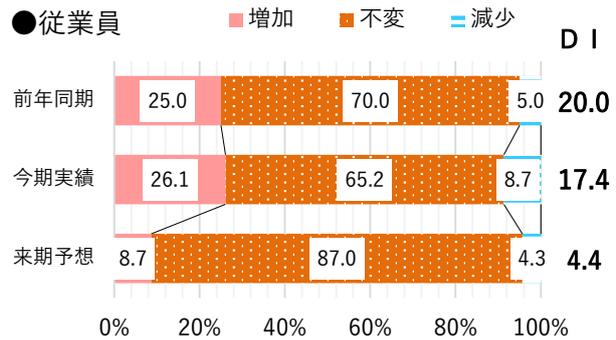
来期は、引合いに大きな変化はないと予想しています。



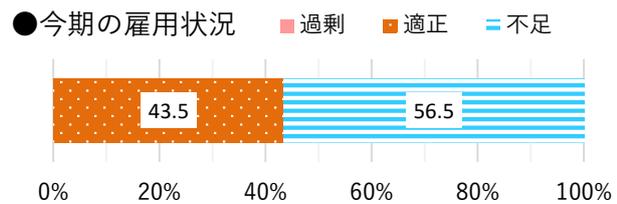
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは17.4で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は43.5%、不足していると回答した企業の割合は56.5%でした。



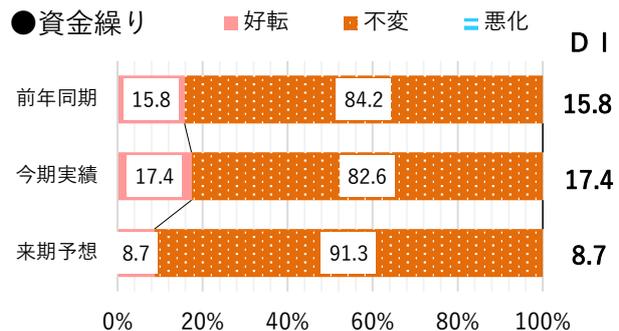
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、34.7%を占めました。回答全体では、56.5%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

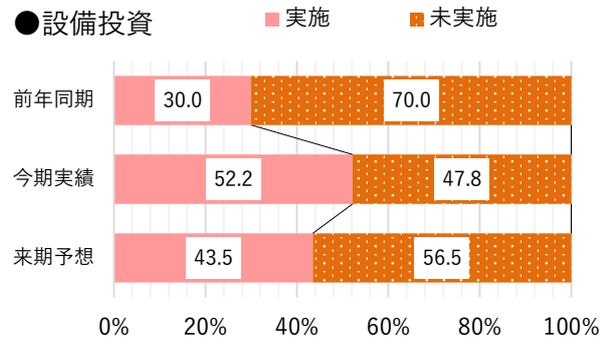
今期の資金繰りDIは17.4で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



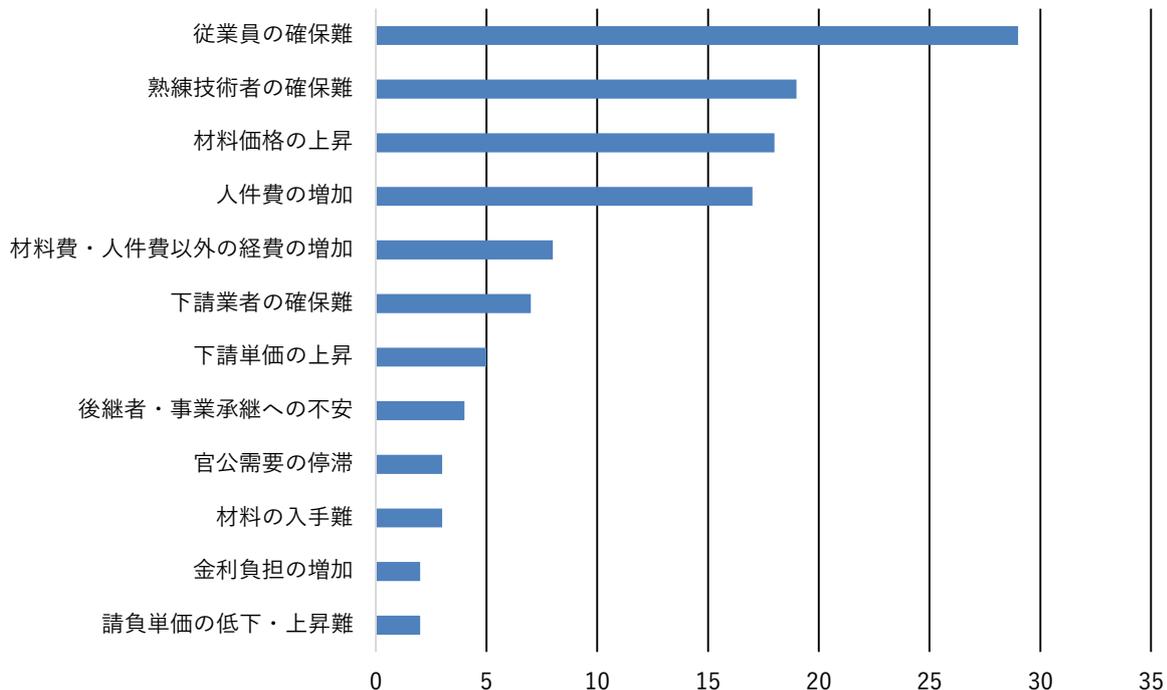
設備投資を実施した企業の割合は52.2%で、前年同期と比べ22.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.5%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「材料価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は不変だった。仕入価格は上昇が予想される。人材不足のため外国人を雇用した。(一般土木工事業)
- 仕入価格の上昇等、マイナス要因をどのように吸収するかが引き続きの課題だ。(一般土木工事業)
- 千歳のラピダス関連の工事で忙しかった。(一般土木工事業)
- 受注額は変わらなかった。(一般土木工事業)
- 人材不足により、常時フル稼働の状態にある。(一般管工事業)
- サッシやガラスの運搬費が上昇しており、1度の運搬に8,000円程かかっている。(職別工事業)
- 資材単価がどの程度上昇するのか読めず、価格転嫁の判断が難しい。(設備工事業)
- 新規契約金額は微増だが、人件費、材料単価などが上昇した。(造園業)

- 昨年同期比と変わりなかった。（造園業）
- 人材確保が上手くできず、工事量に対応できない。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 仕入価格がどこまで上昇するか分からない。（一般土木工事業）
- 今期と同程度の受注確保を目標にする。（一般土木工事業）
- 人手不足解消の見通しが立たない。（一般管工事業）
- 受注件数の減少を見込む。（職別工事業）
- 資材単価の見通しが難しい。（設備工事業）
- 取り巻く環境が不安定で、来期の業況は不透明だ。（造園業）
- 人手不足が続き、受注工事を消化しきれない状況が続くと思われる。（電気工事業）